

# 令和7年度 ゆいの杜小学校 学校評価書

## 1 教育目標（目指す児童像含む）

- (1) 基本目標 「豊かな関わりを生かして、よりよく生きる子供を育む」  
豊かな人間関係づくりのできる学校という集団の中で、児童が自己肯定感を高めながら自分らしさを発揮できるようにするとともに、急速に変化する時代の中で心豊かでたくましく生きる児童を育成する。
- (2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）
- ① 学ぶことを喜ぶ子供 【知】
  - ② 他と豊かにかかわる子供 【徳】
  - ③ 自分を大切にすること子供 【体】

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- (1) 基本理念 「すべては児童のために」
- (2) 目指す学校像
- ① 児童が様々な人との関わりを通して、よりよく学べる学校
  - ② 教職員がチームとなって、一人一人の児童を育む学校
  - ③ 保護者・地域から信頼される、安心安全で魅力ある学校
- (3) 学校の合言葉 「笑顔いっぱい 友達いっぱい みんな大好き ゆいの杜小」

## 3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 常に「全ては子供のために」を念頭に置き、一人一人がゆいの杜小学校の職員であることの自覚と誇り、危機管理意識をもって勤務し、公務員及び教職員としての資質や指導力の向上に努める。
- (2) 人とのかかわりを大切にする「ゆい結プロジェクト」を継続的に推進するとともに、確かな学力、個性を生かした教育と生きる力の育成に努める。
- (3) 地域学校園内の小中学校はもとより、保護者や地域社会、各種団体との連携を密にし地域の教育力を生かし、地域に開かれた信頼される学校にする。

[清原地域学校園教育ビジョン]

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成～ 人と地域との豊かなかかわりを通して ～

## 4 教育課程編成の方針

- (1) 本校教育課程は、日本国憲法・教育基本法・学校教育法及び同施行規則、小学校学習指導要領、並びに県の方針や「第2次学校教育推進計画（うつのみやいきいき学校プラン）」・「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」・「清原学校園教育ビジョン」に基づき、創意ある教育課程を編成する。
- (2) 本校教育目標・経営方針や努力点・学校課題等を踏まえ、児童の実態・特性、学校の施設・設備、職員組織の実態等を十分考慮して、心豊かでたくましく生きる児童の育成を目指して編成する。
- (3) 新学習指導要領及び宇都宮市小中一貫教育の趣旨を生かし、確かな学力を身に付けるための適正な時数の確保に努める。また、新学習指導要領における「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を一人一人の児童が確実に身に付けられるようにすることを目指して編成する。
- (4) 各教科・道徳・総合的な学習の時間等、相互の関連を図った系統的・発展的な指導を心掛け、児童の自主的・実践的活動や体験的な活動を多く取り入れた特色ある教育活動が展開できるよう編成する。なお、「社会に開かれた教育課程」の観点から地域等の意見の反映にも努めたい。

## 5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
- ① 人とのかかわりを通して、豊かな心を育む教育活動の推進
  - ② 自らの学びを工夫する児童を育成する学習指導の充実
  - ③ 学年・学級経営の充実と個に応じた支援の強化
  - ④ 教職員の資質・指導力の向上と業務の適正化
  - ⑤ 地域とともにある学校づくりの推進
- (2) 学習指導  
豊かな関わりを生かしながら、学びを喜ぶ児童の育成 ～コミュニケーション力を育成するための指導の工夫～
- (3) 児童生徒指導  
人との関わり合いの中から、自己肯定感を高め、自己実現を目指す児童の育成
- (4) 健康（体力・保健・食育・安全）  
自らの健康・体力の保持増進に関心を持ち、生涯にわたって健康で安全な生活をしようとする児童の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上	①コミュニケーション力を育成するための指導の在り方を研究し, コミュニケーション力を伸ばす手立てを広げる。 ②児童が課題や目的に応じて情報手段を適切に活用し, 必要な情報を収集・選択・表現できるよう指導する。 ③授業のねらいを明確にして児童に示すとともに, 考える時間を確保したり授業形態を工夫したりして, 児童が積極的に授業に取り組めるよう支援する。	B	【達成状況】 肯定的回答 児童89.9% 教職員95.3% 保護者87.5% いずれも数値指標を上回った。 ・前年度の研究を基に国語科の学習を中心として, 話し合いや振り返りの方法を学校全体で共有したり, 身に付けたい力やそのための手立てを話し合いしながら, 実践を進めた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は, 思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上	①清掃活動や学校行事などに縦割り班活動を取り入れ, 上級生と下級生が関わる場を積極的に設定する。 ②道徳科の授業と他教育活動との関連を図り, 思いやりのある豊かな心情を育む。 ③豊かな感性を育めるように, 文化的活動, 自然体験, 読書活動を推進する。	B	【達成状況】 肯定的回答 児童90.6% 教職員97.7% 保護者94.8% 地域90.9% いずれも数値指標を大きく上回った。 ・運動会等の学校行事や縦割り班清掃, レインボータイムでの活動を機会に捉え, 上級生と下級生の関わり場の設定できた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。
	A3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上	①学習や学校行事, 児童会活動等において, 児童が主体的に活動する場を意図的に設定し, 個人や集団で目標達成に向けて根気強く組めるよう支援する。 ②家庭や地域と連携し, 児童一人一人のよさや小さな努力の積み重ねを認め励ます指導を推進する。 ③学年だよりやホームページ, スタンドダイアリー等を活用し, 児童が目標に向かって粘り強く取り組んでいる様子が家庭に伝わるように学年だよりコーナーを設けたり, 各学年から行事ごとにホームページを更新したりする。	B	【達成状況】 肯定的回答 児童88.0% 教職員93.0% 保護者76.6% 児童と教職員は数値指標を上回ったが, 保護者は下回った。 ・児童が主体的に活動できる学校行事等の中で, 個人や集団で目標達成に向けて支援することができた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 児童は, 健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上	①体力チェックの結果の分析と, それを生かした指導の充実を図り, 児童間の教え合いや学び合いの場を設定することによって運動の機会を増やす。 ②給食だより, 保健だより等を活用して健康に関して保護者への啓発を図るとともに「キラキラウィーク」「朝ごはん食べよう週間」を実施し, <u>児童の歯磨きと朝食に関する実態の把握と啓発を図る。</u> ③避難訓練や交通安全教室など, 交通や災害に対する安全教育を強化し, 「ゆいっ子の約束」を活用して日常生活の中の危険について学年に応じて丁寧に指導する。	B	【達成状況】 肯定的回答 児童91.8% 教職員93.0% 保護者89.9% 地域100% いずれも数値指標を上回った。 ・健康安全共に授業や学校行事を通して, 意識化を図るとともに, 学校生活の中で児童の実態を把握し, 適宜指導できた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。

<p>1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①学校行事や児童会活動、学級活動、クラブ活動等において、児童一人一人が自分の役割を果たせるようにする。</p> <p>②「ゆい結プロジェクト」を推進し、多様な人と協働して活動するよさが感じられるようにするとともにキャリアパスポートを活用して児童が自らの成長や変容を自己評価できるようにする。</p> <p>③道徳科や学級活動を通して、自他のよさが認められる場面を設定し、児童の自己肯定感や自己有用感を高める。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答 児童88.0% 教職員97.7% 児童の数値指標は上回ったが、教職員は下回った。</p> <p>・ゆいプロカード等をきっかけとして児童が様々な人と協働して活動するよさを蓄積することができた。</p> <p>【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。</p>
<p>2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①ALTと担任が打ち合わせを行い、効果的に授業を展開できるように配慮しながら、英語でのコミュニケーションに親しむ機会の充実を図る。</p> <p>②ALTによる読み聞かせ等を実施し、授業以外にも英語に親しめるよう努める。</p> <p>③英語専科教員が中心となって、職員研修の機会を設け、教職員の資質向上を図る。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答 児童87.0% 教職員100% いずれも数値指標を上回った。</p> <p>・ALTと事前に打合せを行い、役割分担を明確にすることによって、ねらいに沿った授業を展開することができた。</p> <p>【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。</p>
	<p>A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答80%以上</p>	<p>①「宇都宮学」を中心に、継続して、宇都宮市全体や他地区との比較検討をすることで本地区への理解を深める。</p> <p>②清原・ゆいの杜の地区の協力を得て、<u>地域のよさを学習する機会を設ける。また、地域の方を招いた授業や地域を活用した学習を実施し多際には、実施内容を学年だより等で周知していく。</u></p>	<p>【達成状況】 肯定的回答 児童87.3% 教職員93.0% 保護者78.0% 児童と教職員は数値指標を上回ったが、保護者は下回った。</p> <p>・生活科や社会科、総合的な学習の時間、道徳を通して、宇都宮のよいところを探したり、他の地域と比べたりすることを通して、宇都宮市への理解を深めた。</p> <p>・LRTを活用した校外学習を行い、宇都宮の施設や史跡の見学を行った。</p> <p>【次年度の方針】 ①②を継続して実施する。 ②については、宇都宮の良さを学んでいることが分かる児童の振り返りなどを、学年だより等で実施した翌月に周知し、実践を共有していきたい。</p>

<p>2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進</p>	<p>A 8 児童は、デジタル機器 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の 肯定的回答 85%以上</p>	<p>①デジタル・シティズンシップ教育の 推進を図り、自ら判断し、責任をも って学ぶ力が身に付くよう指導し ていく。 ②各教科、領域において、発達の段階 に応じて有効な場面を見極めなが ら、積極的に一人1台のタブレット を活用した授業を継続的に実施し て身に付けさせたい力の向上を図 る。 ③プログラミング教育において、児童 にパソコン活用の必要性を意識さ せるとともに論理的思考力を育成 していく。 ④担任と学校図書館司書が連携を深 めながら、各教科の調べ学習にお いて、学校図書館の積極的な活用を 図る。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答 児童 88.8% 教職員 100% 保護者 81.6% 児童と教職員は数値指標を上回ったが、 保護者はわずかに下回った。 ・活用が有効である中～高学年におい ては、教科を問わず、調べ学習や意見 交換の場等でタブレットを活用した 授業を行うことができた。 ・学校図書館司書と連携し、テーマに応 じた本を集めてもらい授業の展開に 活用した。 ・ICT 支援員を活用して、デジタル教育 が推進できた。 【次年度の方針】 ①②③④を継続して実施する。 ②については、引き続き ICT 支援員を積 極的に活用し、その成果について翌月の 学年だよりに記述することで、実践を共 有していきたい。</p>
<p>2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進</p>	<p>A 9 児童は、「持続可能な社 会」について、関心をも っている。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①総合的な学習の時間の学習を通し、 身近な自分の生活と持続可能な社 会との関わりを考えさせるなどし て、福祉や環境、異文化交流への関 心を高める。 ②生活科や理科、道徳の授業、委員会 活動を通して、節水や分別など身近 に取り組める内容について呼び掛 けるなど、環境保全に目を向けたり 動植物を思いやる心を育てたりす る。 ③学校図書館司書と連携し、「持続可 能な社会」についての資料を把握し て指導に生かせるようにする。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答 児童 88.8% 教職員 79.1% 児童は数値指標を上回ったが、教職員は 下回った。 ・環境委員会が中心となって、リサイク ル用紙の回収、放送やポスターを通し た分別の呼びかけをした。また、総合 的な学習の時間で自分たちができる ことを考えることで、環境への意識を 高めた。 ・図書室では、SDGs など、「持続可能な 社会」に関わる資料を展示した。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。 ②については、環境委員会を中心に、放 送やポスターを通した節水・節電・分別 などの環境に関わる取組を行っていく。 また、③については、引き続き SDGs に 関わる資料を充実させ、児童の関心を高 めていきたい。</p>
<p>3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進</p>	<p>A 10 教職員は、特別な支援 を必要とする児童の実態 に応じて、適切な支援を している。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①校内支援委員会を通して教職員間 の情報共有を図るとともに、学級や 学年間の情報交換を密にして広く 児童理解に努め、組織的に児童の支 援に当たる。 ②ケース会議や教育相談の充実を図 り、児童一人一人のニーズや悩みを 把握し、関係機関との連携を図りな がら、個に応じた支援を展開する。 ③児童の特性や理解度に応じて一人 一台のタブレット等の活用により、 個に応じた指導の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答 教職員 100% 数値指標を上回った。 ・校内支援委員会や月1回の情報交換会、 日常的な教員同士の情報交換で共通 理解を図り、適切にケース会議等を行 うことにより、一人一人のニーズに応 じた組織的な支援を行うことができ た。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。</p>

<p>3-(2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上</p>	<p>①2月ごとのいじめアンケート調査やQ-U、教育相談を有効に活用し、早期発見、早期対応に努めるとともに、いじめは許されない行為であることを徹底指導できるよう、学級活動や道徳科の授業等、様々な機会を生かして継続的な指導を行う。 ②いじめに関する情報交換を常時行い、迅速に組織的に対応できるよう、全教職員が報告・連絡・相談を確実に行う。 ③「いじめゼロ強調月間」の活動や学年に応じたスマートフォン・携帯電話の使い方の指導等を各種たよりで保護者や地域に発信し、連携して取り組めるようにしていく。 ④いじめ防止に対する学校での取り組みについて、学年だよりやさくら連絡網、HP等で周知する。また、授業参観等で保護者が来校する際には関連する動画等を紹介する。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答 児童96.6% 教職員100% 保護者81.1% 地域91.7% 児童と教職員、保護者は数値指標を上回ったが、地域は下回った。 ・いじめゼロ強調月間を通して児童への啓発を行ったり、いじめに関するアンケートや教育相談を基に事実の把握をしたりすることができた。また、日常的な指導の中で、いじめは許されないことを継続して指導してきた。 【次年度の方針】 ①②③④を継続して実施する。 ③については継続かつさらに強化していく。 ④については次年度以降も継続できるよう働きかける。</p>
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上</p>	<p>①児童一人一人が存在感をもち、自己実現の喜びを実感できる学級経営を実践する。 ②「ゆい結プロジェクト」を推進し、様々な人との関わりを重視し、良好な関係を築いていけるようにする。 ③ケース会議や教育相談の充実を図り、児童一人一人のニーズや悩みを把握し、関係機関との連携を密に行いながら、個に応じた支援をする。 ④新たに副担任制を取り入れるとともに、クラスで一緒に児童が遊ぶ「共遊」の時間を設定するなど、学級経営の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答 児童95.6% 教職員100% 保護者90.7% いずれも数値指標を上回った。 ・学年主任会や学年会等で常に情報交換を行い、共通理解の下、学級経営や児童支援を行ることができた。 【次年度の方針】 ①②③④を継続して実施する。</p>
<p>3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上</p>	<p>①外国人児童の実態に応じた指導や多様な教育的ニーズに対応するために、日本語指導教師や関係機関との連携を図り、全職員共通理解のもと個に応じた支援を行う。 ②年2回の教育相談の実施や「なんでも相談ポスト」の設置により、児童が不安や悩みを打ち明けられるようにするとともに、援助を必要としている児童には、組織的に対応できるようにする。 ③HPや各種たよりを通して、学校の取組を保護者や地域に情報発信し、理解と協力を求める。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答 児童96.1% 教職員100% 保護者90.3% 地域83.3% 児童と教職員、保護者は数値指標を上回ったが、地域は下回った。 ・教育相談やアンケートにより児童の悩みを把握するとともに校内支援委員会等で情報交換を行い、同じ認識の下、組織的に支援を必要とする児童に関わることができた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。</p>
<p>3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上</p>	<p>①校内で授業の進め方、課題の明確な提示、板書の仕方等の共通理解と共通実践に基づき、日々の授業の充実を図る。 ②朝の「学習タイム」を活用し、学年で計画を立てて、課題の質・量・手立て等を工夫しながら基礎学力を確実に定着させる。 ③校内でのOJTによる研修の実施や教科担任制の推進により、専門的な見地から授業の質を高める。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答 児童96.6% 教職員100% 保護者85.4% いずれも数値指標を上回った。 ・授業の進め方や板書の仕方については、共通理解や共通実践が進んでいる。教職員が授業公開を積極的に行い、互いに学び合う雰囲気が醸成されてきた。 ・OJTによる研修や教科担任制の効果的な実施により、学力向上を図ることができた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。</p>
<p>4-(1) 教職員の資質・能力の向上</p>			

<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①行事や授業の準備等、学年や分掌内の役割分担を的確に行い、連携を密にして教育活動を行う。 ②かがやきルーム指導員、学校図書館司書、日本語指導教師、ICT支援員、SC、サテライト担当教員、ALT等と積極的に情報交換を行い、教育活動の質的向上を図る。 ③校務分掌や学習指導、児童指導等において、OJTを実施していく。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答 教職員97.7% 数値指標を上回った。 ・個々の役割を行うだけでなく、校務分掌等の垣根を越えて、相互に協力して業務に当たることができた。 ・学年会や学年主会において必要な情報を共有し、具体的方策について検討する場を設けていることで、一体となって指導や支援に生かすことができている。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。</p>
<p>4- (3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①「働き方改革プロジェクト」の検討を踏まえ、取組を着実に実施し、業務の効率化を図る。 ②勤務時間を意識し、優先順位を付けて業務にあたる等、個々の教職員の取組を継続する。 ③リフレッシュデーを毎月設定し、着実に実行する。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答 教職員90.7% 数値指標を上回った。 ・「働き方改革プロジェクト」の検討を踏まえ、業務の効率化やリフレッシュデーの実施ができた。 ・業務に優先順位をつけて計画的に取り組み、効率化を図っている。 ・業務におけるデジタル化を活用し、児童と向き合う時間が増えている。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。 ③については、計画的に業務に取り組めるように「リフレッシュデー」や「B日課」をより意識する。</p>
<p>5- (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】</p>	<p>①<u>地域学校園としての地域の教育力を生かした活動が実施できるよう努めるとともに、あいさつ運動や宮っ子チャレンジなど、中学生と児童が直接関わる活動においては、地域学校園としての意識をもって参加できるようにする一方、取組の趣旨や様子について、学校だよりやホームページを通して発信したり、校内に掲示したりするなど、児童や保護者への周知を図っていく。</u> ②<u>児童生徒指導強化連絡会、6年児童の進学先中学校訪問を通して、小中学校の情報交換を密に行うことで、6年児童の中学校進学をスムーズに行う。</u> ③<u>地域学校園において司書教諭など一人配置教職員による連携を推進し、学校運営の充実を図る。</u></p>	<p>【達成状況】 肯定的回答 児童91.8% 教職員95.3% 地域91.7% いずれも数値指標を上回った。 ・中学生とのあいさつ運動や宮っ子チャレンジでのかかわり合いなど、互いのよさを認め合う機会を積極的に設けた。 ・児童のよりよい姿を学年だよりやHPによって発信し、保護者や地域への周知を定期的に行った。 ・児童生徒指導強化連絡会等において中学校や各小学校との情報交換を行い、児童生徒に関する共通理解や学校園としての課題の把握に努めた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。</p>
<p>5- (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充</p>	<p>①「頑張る学校プロジェクト事業」を効果的に実施するとともに、地域人材や企業等の出前授業を活用した</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答 児童91.8% 教職員100%</p>

<p>5- (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>実を図っている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上</p>	<p>り、地域の幼稚園、保育園との交流を行ったりすることで、専門的、体験的な学習活動が推進できるようにするとともに、実践の様子について周知していく。 ②地域協議会やPTA等と連携し、年間予定やボランティア募集の情報を計画的に発信しながら各ボランティアの協力を効果的に得て、教育活動の充実や児童の安全確保、健全育成を図る。 ③「うつのみや学校マネジメントシステム」の活用や地域協議会の協力を得て、教育の成果を検証し、教育活動の充実を図っていく。</p>	<p>保護者88.4% 地域100% いずれも数値指標を上回った。 ・学習内容に応じて、地域資源や地域人材を意図的に活用し、体験的な活動の充実を図ることができた。 ・地域や保護者と連携した登下校の見守り等を継続して実施し、児童の安全を確保できた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。</p>
<p>6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】</p>	<p>①月1回の安全点検を着実に実施し、危険箇所を発見した場合は速やかに修繕する。 ②学校の行事を実施する際には、来校された方々の安全にも配慮するなど適切な環境づくりに努める。 ③各種委員会と連携して、遊具の使い方決めや使用学年の優先順位について考えたり、ケガマップを作成したりするなど、児童が自ら学校生活の安全について考えられるようにする。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答 教職員100% 保護者94.6% 地域100% いずれも数値指標を大きく上回った。 ・学校業務による点検や毎月の安全点検を実施し、危険箇所の早期発見や事故の未然防止に努めた。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。</p>
<p>6- (2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>①パソコンやデジタル教材等、ICT機器の整備に努めるとともに、授業研究会を通し、教職員の指導力向上を図る。 ②校務の効率化、情報の共有化に向けてシステムやツールを積極的に活用する。 ③学校図書館の学習・情報センターとしての機能の充実が図れるように、全職員による幅広い資料選択や授業に対応できる蔵書整備を行う。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答 教職員100% 数値指標を上回った。 ・ICT支援員の協力を得て、教材の作成や各種機能の操作などの自己研鑽に努め、指導力の向上を図った。また、ICT支援員を中心にデジタル教育に関する自己研修を実施した。 【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上</p>	<p>①全職員が共通理解のもと、常時指導を強化するとともに、児童会主体の「あいさつ運動強化週間」を実施する。 ②清原地域学校園、地域協議会、PTAと連携・協力してあいさつ運動を展開し、保護者や地域に運動の様子をHP等で発信して、学校内・外でのあいさつの習慣化を図る。 ③教職員が率先してあいさつし、児童のあいさつへの意識を高める。 ④友達同士でのあいさつや、地域の方へのあいさつ等、学校内外に限らず自然なあいさつができるように、指導する。（あいさつの習熟を図る。）</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答 児童89.4% 教職員81.4% 保護者79.8% 地域90.9% 児童・地域は数値目標を上回ったが、教職員、保護者は下回った。 ・生活委員会によるあいさつ運動を実施するとともにあいさつに関する生活目標を設定したが、あいさつが苦手な児童への意識改革が不十分であった。 【次年度の方針】 ①②③④を継続して実施する。</p>

	<p>B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上</p>	<p>①「ゆいっこの約束」を活用し、望ましい行動習慣の形成を促すとともに、よくできたことについては積極的に称賛し、児童の意識を高める。</p> <p>②学校教育目標との関連を図って週の生活目標を設定し、児童の実態や時期に応じた基本的な生活習慣（重点目標）の徹底を図るとともに、取り組みの様子を伝えることで、保護者や地域の協力を得る。</p> <p>③廊下の歩行の仕方や名札を身につけること、交通ルールを守ること等の基本的な生活習慣について、全職員の共通理解のもと、日常的に指導する。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答 児童90.9% 教職員95.3% 保護者90.5% 地域90.9%</p> <p>いずれも数値指標を上回った。</p> <p>・「ゆいっこの約束」の家庭への配付により、望ましい生活習慣の形成を促したり児童を称賛したりすることができた。</p> <p>・きまりやマナーに関する生活目標を設定することで、意識向上を促した。</p> <p>【次年度の方針】 ①②③を継続して実施する。 ③については児童の生活に関する内容も積極的に指導していく。</p>
	<p>B3 学校は、児童が人と関わり、豊かな人間関係づくりのできる教育活動を推進している。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答85%以上</p>	<p>①「ゆい結プロジェクト」を推進し、児童一人一人が人との関わりを意識し、めあてをもち、充実感や達成感を味わえる取組を積極的に行う。</p> <p>②縦割り班活動や異学年交流の充実を図り、互いを認め、互いを大切に育てる。</p>	<p>【達成状況】 肯定的回答 児童95.5% 教職員100% 保護者90.8% 地域90.0%</p> <p>いずれも数値指標を上回った。</p> <p>・「ゆい結プロジェクト」を推進し、めあてをもって人と関わったことにより、互いを尊重する気持ちをもつことができた。</p> <p>【次年度の方針】 ①②を継続して実施する。</p>

### 【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

開校5年目を迎え、学校教育目標の具現化に向け「笑顔いっぱい 友だちいっぱい みんな大好き ゆいの杜小」を合言葉に教育活動の充実を図ってきた。今年度は児童、保護者において、肯定的回答の向上した項目が増加した。

学校マネジメント全体アンケートの結果において、児童・保護者・地域・教職員とも90%以上の肯定的回答となっているのは、A2「児童生徒は、思いやりの心をもっている。」、A19「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」、B2「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」、B3「学校は、児童が人と関わり、豊かな人間関係づくりのできる教育活動を推進している。」の4項目である。本校の児童は、安全で整った環境の下、きまりやマナーを守って生活している様子が伺える。特にA2やB3については「ゆい結プロジェクト」として、人との関わりについてめあてをもたせ、共遊や縦割り班活動、異学年交流の充実を図る取組を積極的に実施してきた成果と思われる。

昨年度の課題であったA14「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」については、肯定的回答が大きく向上した。今年度、高学年はもちろん中学年においても教科担任制を積極的に実施する一方、学習指導に関する研究や研修を進めて教員の専門性を高め、指導力の向上に努めてきた成果の表れと考えられる。同様に、昨年度、課題として挙げられていたA12「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。」、A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」についても、肯定的回答が向上した。新たに副担任制を取り入れ、学級経営に力を入れ、クラスの児童と一緒に遊ぶ「共遊」の時間を設定するなど、温かな学級づくりや不登校を生まない学校づくりに取り組んできた結果、充実した学校生活をおくることができたのではないかと考えられる。

一方で課題となる項目としては、A3「児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」A7「児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。」について、保護者の肯定的回答の割合が昨年度に続き8割を下回る結果となった。学校では、学習や学校行事などで児童に目標を持たせ根気よく取り組むよう支援したり、一人一人のよさや小さな努力の積み重ねを認め励ます指導を行ったりしてきた。また、各教科領域の学習において地域の素材を取り上げて宇都宮の良さを知る機会を設けてきた。その結果、A3・A7ともに児童の肯定的回答は向上してきていることから、次年度も様々な媒体を通して継続して児童のよさや頑張りや家庭や地域に広く知らせていく必要がある。

また、B1「児童生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。」については、児童・保護者・地域・教職員とも肯定的回答が昨年度よりも下回る結果となった。校舎内ではあいさつができていても、学校外や地域ではあいさつができていないという児童の実態が見られるので、学年に応じてあいさつの大切さを適宜指導するだけでなく、家庭や地域とも連携して、あいさつの定着を図っていききたい。

## 7 学校関係者評価

- ・あいさつができる子とできない子が明確になってきていると感じる。これから先、中学・高校・大学・社会人として、大切なものであるため、家庭にも呼びかけ、あいさつの重要性をきちんと指導してほしい。
- ・下校の様子を見ると、児童の安全への意識について、学校から離れるにしたがって希薄になる傾向がある。そのため学校から離れるにしたがって、下校班が1列に並ばず広がって歩く姿を見かけるので指導してほしい。
- ・登下校時の校内への車の乗り入れが増えてきている。原則的には車で送迎は禁止であることを、学校やPTAから再度周知する必要があるのではないか。特に校内での安全確保について。

## 8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

学校での自己評価や保護者、児童、地域の皆様から寄せられた貴重なご意見を真摯に受け止め、次年度の方策について具体的に検討していきたい。

### 【学校運営】

- ・人との関わりを大切に「ゆい結プロジェクト」を通して、コミュニケーション力を高めるとともに良好な人間関係づくりに努め、児童一人一人が自己実現の喜びを実感できるようにしていく。
- ・児童が主体的に活動できる場を意図的・計画的に設定し取組を工夫していくとともに、個に応じた支援を充実させることで児童の自己肯定感や自己有用感を高めていく。
- ・各種便りや学校ホームページ、授業参観等を通して積極的に情報を発信し、学校の取組を理解していただくとともに、家庭や地域と連携を図り、協力や支援を得られるように努めていく。
- ・オープンスクールや授業参観、出前授業や体験活動など、児童や学校の様子を保護者や地域の方が参観できる機会を増やし、学校運営や教育活動への理解の向上を図る。

### 【学習指導】

- 家庭学習の充実・習慣化を図るため、「家庭学習ふり返り週間」を年2回設け保護者に協力を求める。
- ・校内研修を通して学習に関する重点目標の共通理解を図り、授業の実践・公開をするとともに自己研修に積極的に取り組み、教職員としての資質・能力や指導力の向上に努めていく。
- ・教科担任制の充実を図り、専門的に教材研究を実施したり発達段階に応じて指導したりするなど、授業の質の向上を目指す。

### 【児童指導】

- 校外でも進んであいさつができるよう、児童の主体的な取組を積極的に支援し、あいさつ運動を活性化していく。また、家庭や地域にも学校の取組を伝え、連携してあいさつの指導ができるよう協力を求める。
- ・いじめの早期発見・早期対応ができるように2か月に1回いじめに関するアンケートを実施する。いじめ防止に向けた児童の主体的な活動を支援するとともに、友達とよりよい関係を築く力を身に付けさせる。
- ・児童に関する情報交換の機会を十分確保し、支援を必要とする児童への対応を組織的に推進していけるように、支援体制を整える。
- ・ゆい結プロジェクトとともに今年度導入した副担任制や共遊をさらに推進し、学級経営に力を入れて、温かな学級づくりや不登校を生まない学校づくりに取り組んでいく。

### 【健康（体力・保健・食育・安全）】

- ・「元気っ子健康体力チェック」の結果を基に、教科体育において十分な運動量を確保し、指導法を工夫して運動への関心を高め、体力の向上を図る。
- 水泳、鉄棒、縄跳びのがんばりカードの活用や「キラキラウィーク」での歯磨き・姿勢指導等、地域学校園共通の取組を継続していく。
- ・「自らの健康」について考えさせ、健康的な生活を営むために、体力の維持向上及び食育を関連させた健康指導の充実を図る。
- ・体験型・実践的な指導を取り入れながら安全教育を充実させるとともに、「ゆいっ子の約束」に基づいて、発達段階に応じた日常的な安全指導を継続し、安全意識の定着を図る。